

えりも町におけるイワツバメの営巣の推移

中岡利泰 1)

1. はじめに

イワツバメ *Delichon urbica* は、北海道では夏鳥として渡来する(河井ほか2003)。えりも地域では5月上旬に飛来し、営巣、7月上旬には巣立ちする。その後、姿が見られなくなるが、8月末に一日ほど大群を見かけることがある(図1.)。

本報告では、1995年から2011年の17年間におけるイワツバメの営巣位置および営巣数の変化について報告する。

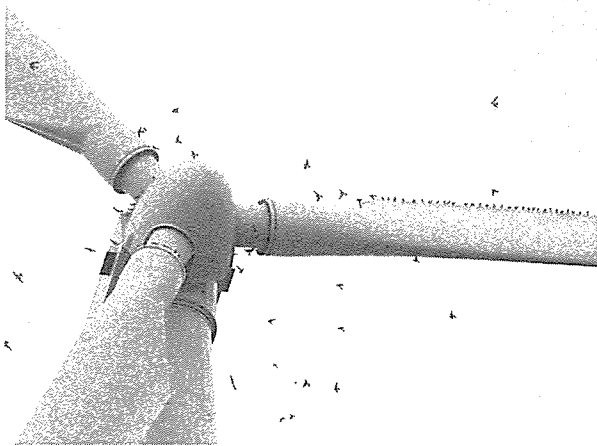


図1. えりも町字新浜の風力発電用風車に集まったイワツバメ(2003年8月25日)

2. 調査方法

調査地は7ヶ所。調査時期は営巣し、巣立ち前と考えられる6月下旬に実施した。営巣数はイワツバメの出入りの有無、新鮮な粘土がつけられた巣、糞が付着している巣を営巣数として数え、スズメに利用されている巣、壊れている巣、造巣最中の巣は、営巣数から除いた。

3. 調査地

調査地は北海道えりも町内7地点において実施した(図2.)。

調査地A(図3-1): 海岸段丘の縁に建設された鉄筋コンクリート5階建の旅館、西向き海側のベランダの軒下に営巣。

調査地B(図3-2): 調査地Aから約200m離れた鉄筋コンクリート3階建の建物の軒下および換気扇カバーの上に営巣。

調査地C(図3-3): 調査地Aから約950m離れた鉄筋コンクリート3階建2棟の軒下に営巣。換気扇カバーの上部も利用。

調査地D(図3-4、図3-5): 調査地Aから約900m離れた、調査地Cから約270m離れた南部家川に架かる大和橋の下面に営巣。

調査地E(図3-6、図3-7): 調査地Aから約550m離れたえりも町民体育館およびえりも中学校の軒下に営巣。

調査地F(図3-8): 調査地Aから約2,200m離れた歌別川河口近くの歌別橋の下面および隣接する水産加工会社の軒下に営巣。

調査地G(図3-9): 調査地Fから約3,300m上流の歌別川に架かる歌別第二橋の下面に営巣。

4. 調査地ごとの営巣数の変化

調査地ごとの営巣数及び合計営巣数を表1. に、営巣数の合計数を図4. に示した。調査当初の1995年には合計127巣あったが、1997年には合計61巣に減少、徐々に増加し2006年には合計186巣となり、その後減少し2011年には合計90巣に減少した。

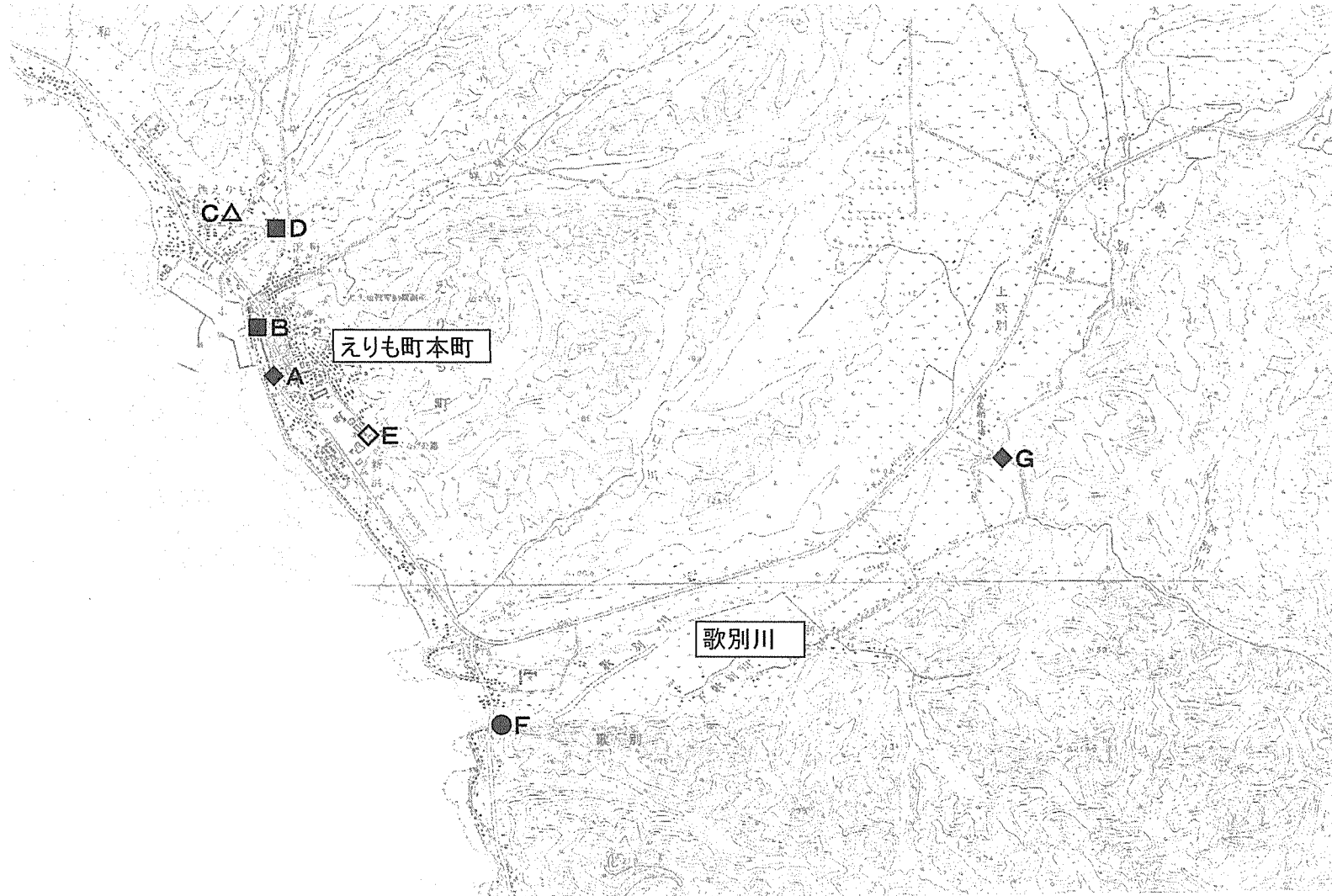


図2. えりも町内におけるイワツバメの営巣地位置図(国土地理院発行1:25,000地形図を使用)

営巣地間の直線距離

A-B間=200m、A-C間=約950m、A-D間=約900m、C-D間=約270m、
A-E間=550m、A-F間=約2,200m、F-G間=約3,300m、C-F間=約3,250m

表1. えりも地域におけるイワツバメの営巣調査地と営巣数の推移

調査地	年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
A		28	21	-	-	18	15	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B		-	-	-	-	-	6	-	-	2	4	0	0	0	0	0	0	0
C		-	*	0	0	2	2	14	36	47	44	0	0	0	0	0	0	0
D:大和橋		80	62	47	50	44	43	44	71	78	92	111	113	87	84	90	74	60
E:町体えり中		0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	34	48	15	19	0	0
F:歌別橋		4	13	6	21	23	16	6	0	8	12	28	24	28	2	3	11	3
G:歌別二号橋		15	10	8	-	6	3	7	9	10	10	10	15	19	23	27	26	27
合計数		127	106	61	71	93	89	104	116	145	162	153	186	182	124	139	111	90

- 1) -は未調査
 2) *は古巣10個の記録あり。

参考記録

調査地	年	1989	1990
D:大和橋		24	49
F:歌別橋		26	0
G:歌別二号橋		-	8

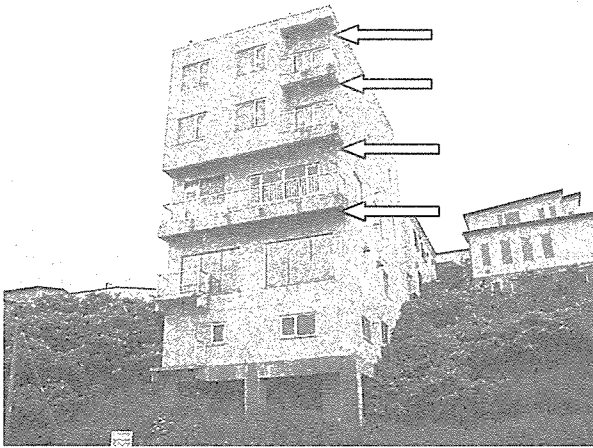


図3-1. 調査地A

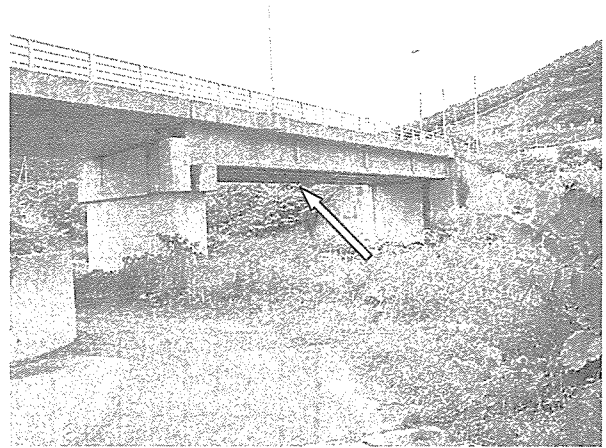


図3-4. 調査地D 南部家川大和橋

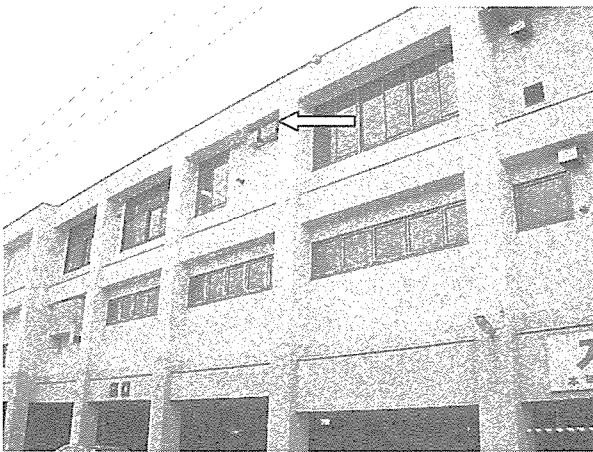


図3-2. 調査地B

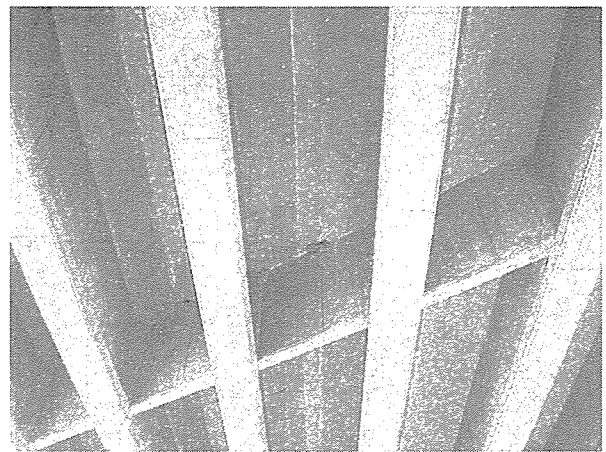


図3-5. 調査地D、橋下面

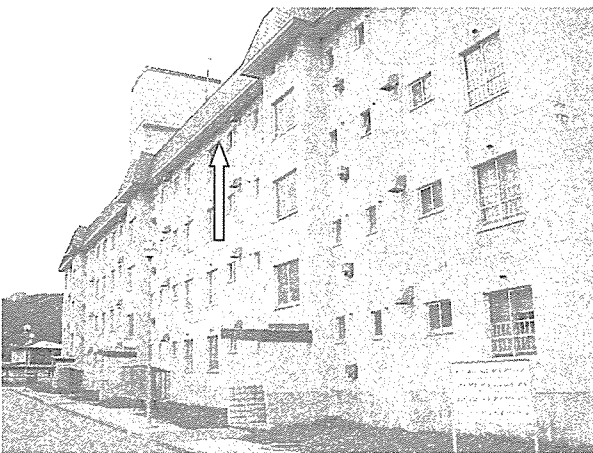


図3-3. 調査地C

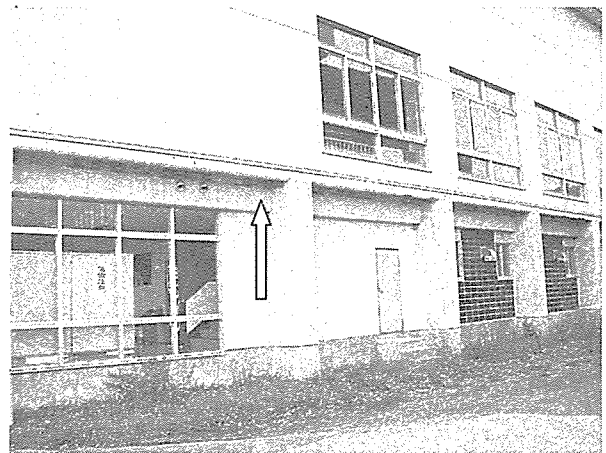


図3-6. 調査地E えりも町民体育館

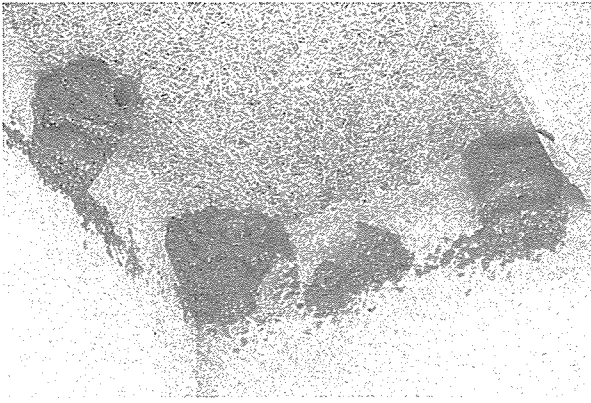


図3-7. 調査地E 営巣状況

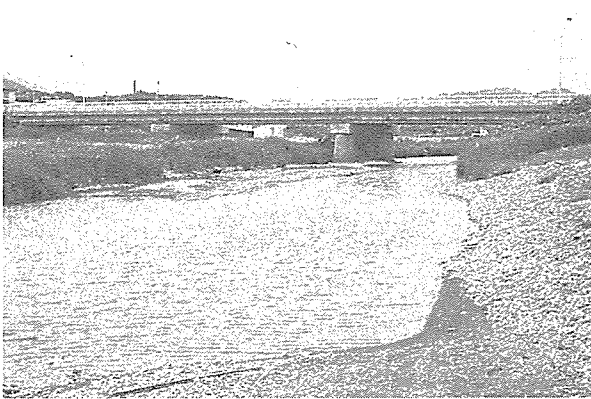


図3-8. 調査地F 歌別川歌別橋
(下流から上流を望む)



図3-9. 調査地G 歌別川 歌別二号橋
(上流から下流を望む)

5. 調査地の営巣環境と営巣状況

調査地ごとの営巣環境の特徴および2011年の営巣数を表2. に示し、調査地ごとの営巣数の推移を図4. に示した。

調査地Aは、地面からの高さ約5～15mのベランダ下面に営巣していた。壁からの張り出しは約60cm、軒の深さは約40cmであった。2002年以降営巣は確認されていない。営巣地として使用しなくなった理由は不明であるが、営巣していた時代にはハシブトガラスによる襲撃が目撃されている。

調査地Bは、地面からの高さ約6m、壁からの張り出しは30cm、軒の深さは0cm、2000年に最初に利用し6巣、2002年調査地Aが利用されなくなると、調査地Bも使用されなかった。2003年2巣2004年4巣が営巣したが、その後利用されていない。

調査地Cは、地面からの高さ約12m、壁からの張り出しは60cm、軒の深さは0cm、1999年より利用され、2002年には36巣になり2004年44巣と利用されたが、2005年以降利用されなくなった。営巣地として使用しなくなった理由は不明であるが、営巣していた時代にはハシブトガラスによる襲撃を確認している。

調査地Dは、地面からの高さ約20m、軒の間は約120cm、軒の深さは約100cm、調査当初の1995年には営巣しており、その後も安定した営巣地として利用され、えりも地域最大の営巣地である。参考記録として、1989年24巣、1990年49巣を確認している。

調査地Eは、営巣に利用している建物は、えりも中学校校舎とえりも町民体育館の二つであり隣接している。それぞれの地面からの高さは約10mおよび6m、軒の深さは共に0cmである。2000年に最初に利用され、4巣を確認したが、2001年から2004年は利用されず、2005年に再度利用され、2007年には48巣と増えたが、この年よりハシブトガラス

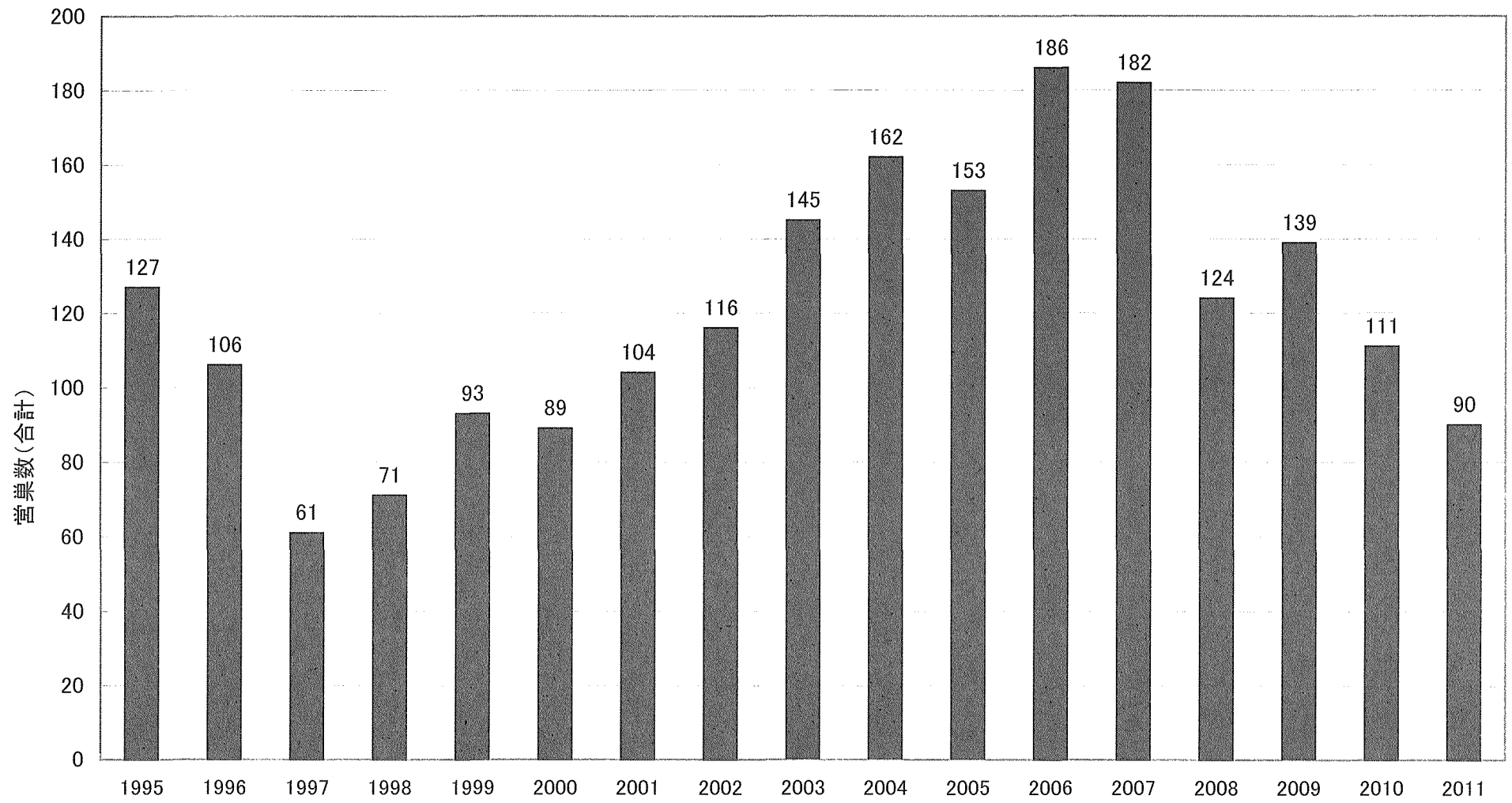


図4. えりも地域におけるイワツバメの営巣数の変遷

表2. えりも地域におけるイワツバメ営巣地調査地の営巣環境

記号	調査地の環境	地面からの高さ (おおよそ) (張出し・軒の深さ)	2011年 営巣数	備 考
A	5階建て鉄筋コンクリート (旅館)のベランダ床下に分散して営巣	5～15m (60cm・40cm)	0個	ハシブトガラスによる襲撃が目撃されていた。 2007年少数の飛来が確認されているが営巣はない。
B	3階建て鉄筋コンクリート (商店)の壁、換気扇カバーに営巣	6m (30cm・0cm)	0個	利用数は少ない。 利用しなくなった原因は不明。
C	4階建て鉄筋コンクリート (集合住宅)の軒下に営巣	12m (60cm・0cm)	0個	ハシブトガラスによる襲撃が目撃されていたが、崩壊の原因は不明。
D	橋の裏に営巣	20m (120cm・100cm)	60個	軒が深く、少数だが安定した営巣。
E	町民体育館の軒下、隣接の中学校の軒下に営巣 (2006年より中学体育館の軒下にも営巣を広げた。)	3m (60cm・0cm) 10m (90cm・0cm) テグスを張っていた。	0個	施設管理者によりハシブトガラス襲撃防止策として、テグスが張られたが、襲撃は防ぎきれなかった。
F	橋の上の雨水を流す配水管 (垂直に下がっている) に営巣	5m (120cm・90cm)	3個	2001年に橋の補強のため橋裏を塗装したため、橋壁への営巣はできず、排水管への営巣となっている。
G	橋の裏に営巣	2m～5m (120cm・120cm)	27個	川原からの高さはないが、軒が深いので少数ながら安定している。

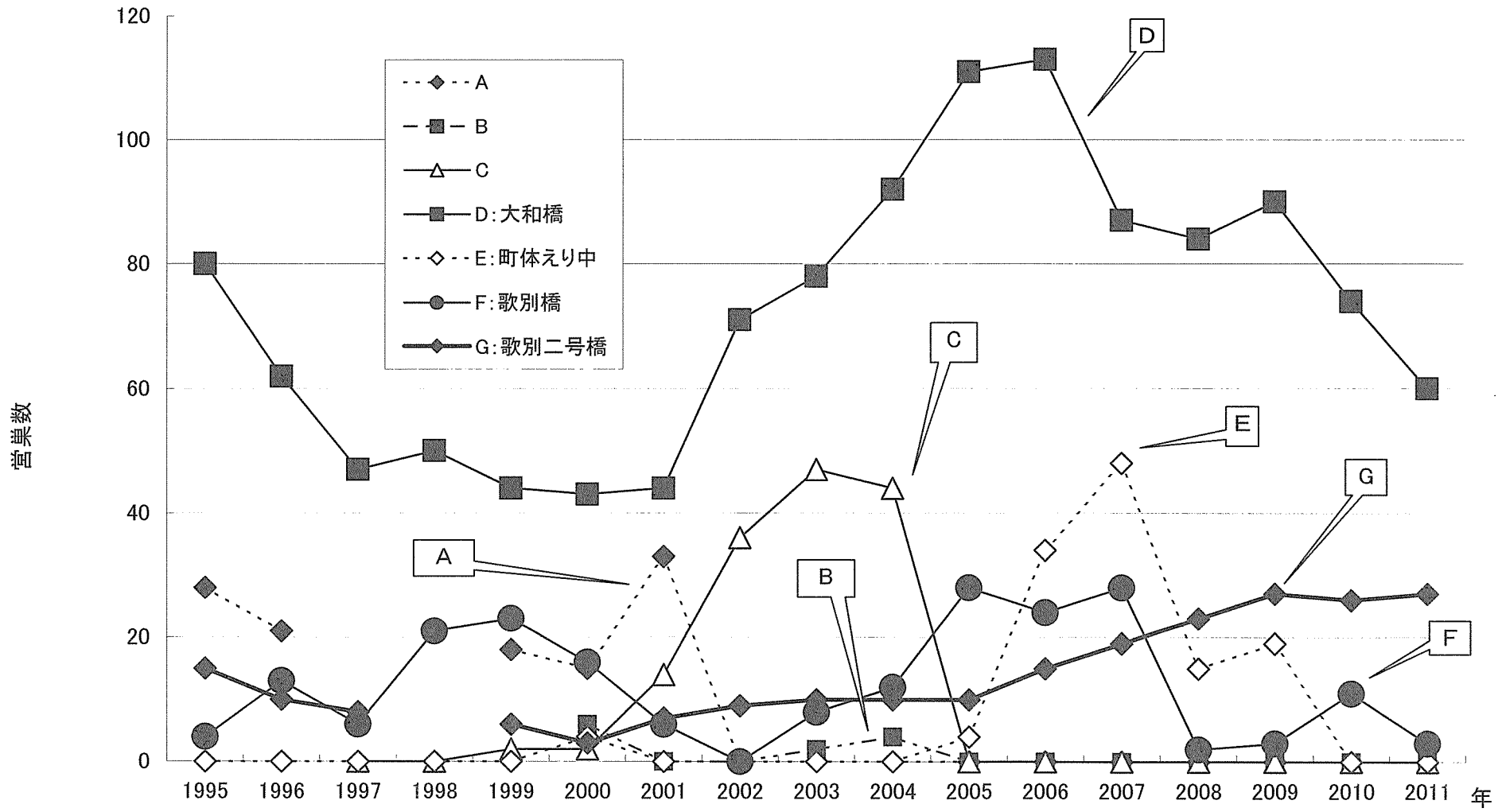


図5. えりも地域におけるイワツバメ営巣調査地別の巣数変化

の襲撃がみられた。施設職員が、町民体育館の軒下にテグスを張ったが、ハシブトガラスの襲撃は防げなかった。その翌年から営巣数は減り、2010年から利用されなくなった。

調査地Fは、地面または川水面からの高さが約5m、軒の間は120cm、軒の深さは90cm、橋梁の下コンクリート面に営巣していたが、1999年8月末橋梁下面の塗装工事が実施され、2001年には橋梁強化のため工事およびコンクリート面を塗装したため、橋梁下面と排水管の角にのみ営巣するようになった。橋に隣接する水産加工会社の軒先での営巣は2000年以降みられなくなり、排水管が錆による劣化のため橋梁下面に出ている長さが短くなり、営巣数が減っている。

調査地Gは、地面または川水面からの高さが約2～5m、軒の間は120cm、深さ120cm、近年少数ながら安定して利用されている。

1995年の調査開始時から2011年まで、えりも地域最大の営巣地は調査地Dであった。

2002年に調査地Aが使われなくなると、Aからの直線距離が約950m離れた調査地Cおよび約900m離れた調査地Dの営巣数が増加した。

2005年に調査地Cが使われなくなると、Cからの直線距離が約270m離れた調査地Dおよび約3,250m離れた調査地Fの営巣数が増加した。

2007年には調査地Dの営巣数が減少し、Dからの直線距離が約1,350m離れた調査地Eの営巣数が増加した。

2007年以降の調査地Dの営巣数の減少、および2008年以降の調査地Eの営巣数の減少は、えりも地域全体の営巣数の減少の大きな因子となっていた。

2005年の調査地Cの放棄により、調査地D・Fへ営巣の移動、および調査地Eへの新規進出したものと考えられた。

調査地Eでは2006年34巣、2007年48巣と良好な営巣地と考えられたが、2008年に半数以下となり2010年には使われなくなった。この原因について、一点目は、ハシブトガラスによる襲撃により繁殖の失敗が続いたこと、二点目は、2010年えりも中学校の耐震化工事の時期が営巣時期と重複したこと、の2点が考えられた。

調査地Fは、1995年より増減を繰り返しており、その理由としてはハシブトガラスによる襲撃、橋梁下面の塗装、強化工事などが、営巣を不安定なものにしていた。

調査地Gは、2005年以前は10巣以下であった。その後、2005年の調査地Cの放棄、2007年の調査地Dの営巣数の減少、2008年の調査地Eの営巣数の減少の反面、調査地Gでは2006年以降少しずつであるが増加傾向にあり、2008年以降23～27巣で推移している。

5. 営巣地変更の原因

数年間安定して利用されたことがある調査地A・C・Fは、ハシブトガラスによる襲撃が目撃されている。調査地Fの水産会社職員の話によると水産会社の軒下において1999年以前は営巣していたがハシブトガラスにやられていたという。また、調査地Fの歌別橋の塗装工事および強化工事による営巣の困難化、およびハシブトガラスによる襲撃により、調査地Fの営巣地をほぼ放棄した可能性が考えられた。

使用しなくなった理由がはっきりしないものの、ハシブトガラスの襲撃による育雛巣立ちの失敗が、翌年の営巣地の選択につながっている可能性がある。

調査地DおよびGが営巣地として利用し続けられている理由として、軒の深さが、調査地Dが約100cm、調査地Gが120cmと、営巣地として利用しなくなった調査地Aの40cm、調査地B・Cおよ

びEの0cmと比較して深く、ハシブトガラスの襲撃を防ぐことができる構造物に営巣していることが考えられた。

6月下旬から7月上旬の巣立ち後、イワツバメはえりも町内の平地では観察することはできない。8月下旬頃、えりも町内の平地に集団で再飛来し(図1.)、一日ほどでいなくなる。この後は、越冬のため南下すると考えられる。しかし、巣立ち後から8月下旬までの期間、えりも町内で繁殖したイワツバメがどこで過ごしているかはわかっていない。

参考記録

えりも町と広尾町の町境にある小河川に架かる橋梁に2008年イワツバメが飛来していたが、営巣の確認はしていない。2011年営巣の確認をおこなったが、営巣はなかった。また古い巣および痕跡はなかった。

参考文献

河井大輔・川崎康弘・島田明英・諸橋淳(2003)
「北海道野鳥図鑑」pp399.